

今月号はもとぶ記念病院の高石利博先生撮影の秋を感じさせる風景が表紙を飾りました。本土に比べて季節感が乏しいと言われている沖縄では、皆様はどのような機会に秋の訪れを感じられるでしょうか。まだまだ冷房を使う機会も多いですが、一般的には台風の季節が終わり、那覇で大綱引きが行われる頃が秋の入口かな、とも思います。平安時代の勅撰歌人である藤原敏行の短歌「秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ おどろかれぬる」は、目に見えない秋の訪れを風の音で感じ取る心の機微を描いています。この歌が持つ繊細な季節感は、沖縄の秋とは対照的です。個人的にはこのような風流さは持ち合わせておらず、近所の居酒屋で「ぎんなん」や「秋刀魚」の表示をみると秋の訪れを実感します。

例年と異なる今年ならではの秋のイベントとしては 2021 年以來の首相交代があり、この号が出る 11 月の前半には、特別国会と首相指名選挙を経て、政府の新しい体制が決まります。選挙結果次第では波乱の予想もあるようですが、冷静に推移を見守りたいと思います。

今月号の巻頭記事では出口宝先生による令和 6 年能登半島地震 JMAT 活動報告会についてのご報告です。本医師会からも JMAT が派

遣され、活動の詳細は本年度医師会報 4 月号に出口災害医療委員長、田名副会長（当時）から報告されています。本報告会では様々な制約があった中で、先進的な取り組みや ICT ツールが有益であったこと、様々な関係者や活動体が調整し合って避難・治療のためのシステム作りが行われたことが共有されました。また、災害支援活動ではロジ担当者も必須ですが、日本医師会の JMAT ロジチームの創設に本会の事務局が貢献したことは寡聞にして知らず印象的でした。

生涯教育のコーナーでは嶺井第一病院の嶺井聡先生が「頭痛の鑑別と漢方薬治療」という題で執筆いただいています。頭痛診療の幅広さ、奥深さについてご解説いただいています。また、漢方薬を含む対処法についても丁寧に説明されており、多くの皆様の実臨床に役立つのではないのでしょうか。

他にも県立宮古病院院長に就任された川満博昭先生へのインタビューや県立南部医療センター・こども医療センター小児科の高山朝匡先生の乳幼児突然死症候群に関する記事などがあります。診療の合間や秋の夜長に手に取ってご一読ください。

広報委員 山川 研

